

学校支援を積極的に進めよう

～「学校・家庭・地域」がともに連携し、心豊かな八ツ田っ子を育てよう～

知立市立八ツ田小学校 P T A

1 学区及び学校の概要

本地区は、知立市南部に位置していて、古くからの住民と隣接する知立団地周辺に居住する諸外国にルーツのある方々が共存している地域である。登下校中の見守り活動や栽培活動など、地域の方々が積極的に関わってくださったり、学区防災訓練などの学校行事を地域の方々と協働して行っていたりするなど、学校と地域で協働し、子どもたちを健やかに育てている。

2 研究のねらい

新型コロナウイルスが5類感染症に移行されたことに合わせて、学校の対応についても規制が緩和され、校内・校外の活動が活発化している。また、学校教育のさまざまな今日的課題に対処するためには、「学校・家庭・地域」の連携が一層重要となっている。

一方で、学校教職員の働き方改革や共働き家庭の増加による保護者のP T A離れなど、時代に合わせたP T A活動への対応が急務ともなっている。

そこで、「学校・家庭・地域」が連携しながら児童の体験活動を支援するとともに、従来の活動にとらわれない効率的なP T A活動の運営を行うことを通して、子どもたちの健全な育成をめざした。

3 研究の仮説

効率的なP T A活動を推進しながら学校・家庭・地域の連携を強化して、安全活動や体験活動を充実させることができれば、子どもたちは地域や保護者の方々への感謝の気持ちを高め、学校に来ることを楽しむであろう。

4 研究の方法

学校評価アンケートより、子どもたちの地域への感謝の気持ちや学校への楽しさに関する主観的な評価の変化を読み取り、効率的なP T A活動と学校・家庭・地域の連携が子どもたちの心情にどのような影響を与えるかを明らかにする。

5 研究の実践

(1) 学校・家庭・地域とのつながりによる安全活動

ア 「あんしんみまもり隊」と「P T A朝のみまもり活動」の実施

平成16年度に発足した「あんしんみまもり隊」は、登下校時を中心とした児童見守り活動を行う。令和5年度は保護者隊員47名、地域隊員67名の計114名で活動を行っている。また、総会・報告会を年2回行い、地区別に交通や危険箇所等の情報交換等を行っている。さらに従来の交通立ち番を改め、今年度より全保護者に腕章を配付して、年1回以上、保護者の都合がつく日を選んで、通学班について学校まで一緒に見守りながら登校して安全指導を行う、「P T A朝のみまもり活動」を実施している。

イ 地域と家庭が一体的に取り組む防災学習

赤十字や市役所、防災ボランティア団体など多数のゲストを招いて、防災学習を行っている。炊き出しや、放水・煙霧体験、避難を想定したボードゲームなどを行い、防災に対する意識を全校で高めた。また、この日を公開日として保護者に活動を知っていただくとともに、PTA役員にもボードゲームのファシリテーターを依頼するなどして協力を求めながら行っている。



保護者と災害ボードゲーム

(2) 学校教育の今日的課題に取り組む支援活動

ア ゲーム・ネット依存を防止する啓蒙活動

タブレット端末の自宅への持ち帰り実施もあり、ネット利用やSNSの使用への関心が高まっている。そこで、PTA主催により希望する保護者と6年生児童を対象に、講師を招いたゲーム・ネット等の依存症について学習した。この活動を通して、児童は適切な時間管理をするスキルを身に付け、自己制御の重要性を認識することができた。

イ 学校の教職員の働き方改革と保護者の来校負担を軽減する効率的なPTA活動

コロナ禍で中断されていたPTA総会を再開させるにあたり、総会要項をネットで配付したり、信任投票をFormsによるアンケートにしたりするなどして、集合開催を行わなかった。教職員・PTA役員・保護者ともに負担が軽減され、学校への建設的な意見も出されやすくなったとの評価がなされている。

(3) 豊かな心を育む体験活動の実施

ア 「おやじの会」と連携した体験活動の実施

八ツ田小おやじの会は、さまざまな取組を行っている。夏には「サマーフェスティバル」と称して学校のプールを活用してのレクリエーションを行い、多くの子が参加して楽しんだ。

イ 「マラソン大会」での支援活動

マラソン大会の際には、コロナ禍以前はPTA役員によるぜんざいや豚汁の炊き出しが行われていたが、あらかじめ子どもが選択したお菓子の配付に替えた。マラソン後に希望するお菓子が配付されることは、子どもたちのやる気につながっている。同時にPTA役員の負担軽減も図られたと考える。



サマーフェスティバル

6 研究の考察

学校評価アンケートの「いろいろな体験活動は、楽しく充実したものになっているか」の問いは、「そう思う」と答えた児童が令和3年度は73.3%であったが、令和4年度は80.0%に上昇した。また、「学校で楽しく過ごせているか」は59.3%から67.9%に上昇した。

7 成果と今後の課題

単に事業を廃止するのではなく、現状に即した措置に変更して活動を行い、一定の成果をあげることができたと考える。しかし、地域・家庭の要望と連携が児童の心情にどのような効果をあげたかは、さらに検証が必要である。今後も持続可能なPTA活動を模索しながら取り組みたい。